

大工の指導者になってほしい

大工研修制度、3年目始まる

道ビルダーズ協会・ポリテクセンター

北海道最大の工務店団体である(一社)北海道ビルダーズ協会(武部豊樹代表理事、武部建設(株)社長)と職業訓練機関のポリテクセンター北海道(札幌市西区)などが連携して、2年前から立ち上げた「見習い大工育成研修会」が3年目を迎え、6月20日(土)、緊張気味の12人が集った。

この事業は、大工道具の扱いから軸組加工、断熱・気密などを指導し、最後は2級技能士の実技試験問題である加工・組立の演習まで行う。木造住宅をつくる責任者・棟梁を育てる趣旨から、大工工事に限定せず、電気や内装など一通りのことを学ぶことになっている。

新型コロナウイルスの影響でスタートが遅れたが、来年3月まで月に2~3日、のべ138時間のカリキュラムが組まれている。

昨年と一昨年参加した若手大工は、それぞれ2年目、

3年目に進んでおり、3年間で研修が終了する。

研修前には道ビルダーズ協会・武部代表らが激励のあいさつをした。新人のころいっしょに教育を受けることで仲間ができ、困ったときに相談できるようになることや、棟梁となり若手の教育を行う指導者になるためにまずは自分自身が基礎から学んでほしいなどのメッセージに受講者はしっかりうなずいていた。

この日は、台カンナの扱いから始まり、翌日はノミについて学んだ。

参加した大工の所属は、大太平洋建業(株)、(株)三五工務店(札幌)、(株)エーステック(江別)、武部建設(岩見沢)、(株)丸三ホクシン建設(石狩)、(株)キクザワ(恵庭)の6社。

問い合わせは道ビルダーズ協会へ(☎011-215-1112)。



オリエンテーションの様子と、受講者にカンナの扱いについて説明する講師